

## 未来を担う子ども達に役立てて

ト  
ン  
ミ  
ン  
義  
コン

### ワクワク食堂にバラ肉9キロを寄贈

温かい食事を通して未来を担う子どもたちのために、笑顔とワクワク感を与えている十日町ワクワク食堂(山田健一(会長)の活動に役立ててほしいと、梅ミートコンパニオン(阿部昌史社長、本社、東京都立川市)では牛のバラ肉9キロを寄贈。先月28日には山田会長が経営するダイニング成ル(高田町1丁目)で贈呈式が行われた。

ワクワク食堂は2022年2月から活動を始め、月1回、100円で食事を提供している。予約制で50食から60食を贈っている。

食肉加工工場のミートコンパニオンでは、本社



山田会長(右)にバラ肉を寄贈したミートコンパニオンの小林センター長

でフードロスをなくす活動を展開していることもあり、今回の寄贈となった。カレーライスや焼き肉など、肉は子どもたちが好きな食材としている

一番に挙げるが、余ってしまう事が、廃棄処分するにも費用が掛かることから、同社では有効活用を考えていた。

この日は十日町市内にある同社の新築第2工場アリカセンターの小林勝利センター長が訪れ、山田会長に現物を手渡しした。寄贈された肉は2日後の先月28日に開催されたワクワク食堂で子どもたちに提供された。

山田会長は「企業の方から寄贈して頂いて大変ありがたいです。食事の問題は色々な課題を集約していると思います。支援を通じて横のつながり

が広まり、想定外の事も起きていて嬉しく思います。ジャガイモやニンジン、玉ねぎを持ってきてくれている八日屋さんもあり助かります。少子化が進む中、子どもたちを守る意味からも、これからも継続して、ワクワク食堂の認知度を高めていきたい」と喜びを語った。

なお、ワクワク食堂ではこの日の5日、午前11時から分じろうで、唐揚げ丼を100円で提供することにしている。中学生以下が対象で、今回は予約なしで販売し、なくなり次第終了する。